## 2017～ブリティッシュ＆アイリッシュ・ライオンズツアー・ニュージーランド

1．ライオンズ

ラグビーファン一筋35年、「一番の望みは何ですか？」なんて問いかけられたら、母校京都産業大学の全国制覇なんて言ってしまいそうですが、ワールドカップ観戦にブレディスローカップ、ホームユニオン絡みの国際試合、スーパーリーグ、トゥイッケナムにミレニアムスタジアム・・と望みが広がるのですが、歴史を重ねると共に、夢が実現していきます。2015年には、ジャパンが南アフリカに勝利するなんて場面にも立ち会いましたし、トゥイッケナムでイングランド対ウエールズの試合を観戦してスイングロー、スイートチャリオットの合唱にも参加しました。ホームユニオンとしてのイギリスへの憧れから、4年に一度結成するライオンズの試合のナマ観戦なんて望みを持っていました。

ラグビーの国際ボード上、イギリス代表という概念はなくて、競技発祥の地ということで、歴史との兼ね合いで4か国の代表が存在します。エリザベス女王が統治するイングランド、ラグビーが国技のウエールズ、バグパイプの演奏のスコットランド、ギネスビールのアイルランド。プレーにもそれぞれ特徴があって、私見によりますが、イングランドはオールマイティーで都会的ななんでもありの攻撃、ウエールズはフォワード１列が強くひたむきさが命、スコットランドはオーソドックスで相手の弱点に対して敏感で上手い、アイルランドは最強ロックと天才バックスの融合。毎年、この4か国と、フランス、イタリアを加えた6か国で、シックスネーションズという大会でしのぎを削っています。

そんな実力派の各国の代表になるだけでも大変なのに、4年に一度、イギリス（グレート・ブリテン）代表チームを結成して南半球に遠征するのです。今年がニュージーランド、4年前はオーストラリア、8年前は南アフリカと南半球の強豪の3か国を順番に訪問しますから、12年振りのニュージーランド訪問で、オールブラックスと対決します。チーム名が、ブリティッシュ＆アイリッシュ・ライオンズで、赤

色のジャージに4か国の象徴（バラ・羽根・アザミ・クローバー）を合わせたエンブレムが付いています。このジャージに袖を通すのは、名誉なことで、代表歴（キャップ）もカウントされます。

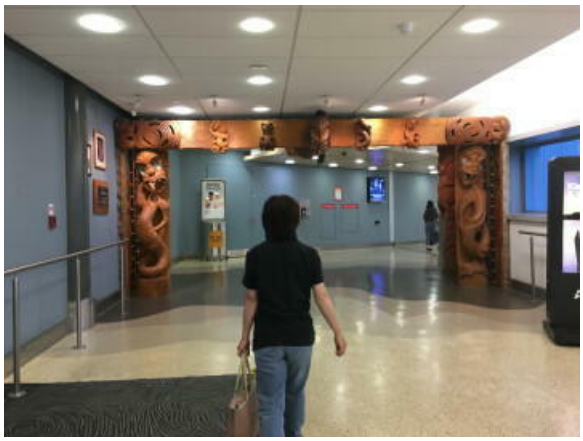
スタンド側からも凄い人気で、このツアーをイギリス本国から追いかけてくるファン2万人で、4年間この為に働いて約1カ月（10試合）のツアーに同行する人もいるそうで、オールブラックスファンも含めて、チケットを手に入れるのも大変なことなのです。

2. オークランド

ライオンズが見たい一心でツアーの日程が出た時点で、ニュージーランド旅行を確定。会社を休めない時期と地域活動とバドミントンの試合予定を外して、オークランドでオールブラックスとの対戦が組まれる日を計算して、旅の日程を決めました・・・と言うより、航空券購入という荒療法。あとは、チケット購入できれば、ドリームカムトゥルーですが、これが大変で、イギリスからのツアー参加という航空券・宿舎付チケットならあるけど、いざインターネットで一般発売の抽選に参加しようとすれば、ニュージーランド在住者対象。テストマッチ以外なら購入できるのに、意地悪ですね。別に、ホスピタリティー付きの高いチケットが出ましたが回避、続いてファンパッケージという少しお安くなったホスピタリティー付きチケット申し込むも、在住者のみという条件で座礁。現地の旅行会社にお願いしてなんとかチケットをゲット。夢を実現するための高価なお買い物になりました。

ホスピタリティーとは、おもてなしという意味で、価格次第で待遇が違いますが、「試合前にフルコースディナーが出てアルコール飲み放題、VIPルームで観戦して、試合後は対戦を終えた選手交えて打ち上げ乾杯」なんてのが最高レベルですが、ファンパッケージは、試合5時間前からご近所のアイリッシュパブで軽食とドリンク5杯飲んで、ラグビー場に勝手に移動、後方の座席から、グランドを眺めるというもの。けど、生ビール5杯も飲んだら試合見れるか心配だし、まあ、パブでご一緒させていただいた皆さんはご陽気で元気、元気、パワフルでまだまだ飲めそうな感じで、貴重な体験をさせていただきました。

６月２２日、いざ伊丹から成田へ。今回のビックリは、ラグビー観戦の大先達さんと偶然伊丹で出くわしたこと。前の土曜日は静岡のエコパスタジアム、日曜日は京都産業大学神山グランドでご挨拶を交わしての伊丹。なんと、同じ飛行機で、オークランドまで一緒で、こちらテストマッチ１試合観戦で、大先達さんはテストマッチ3試合+1試合（ウエリントンのハリケーンズ戦）でうらやましく思いました。人のこと言えませんが、お好きですね。現地のサイン会の情報を教えていただいて、いざオークランドへ。



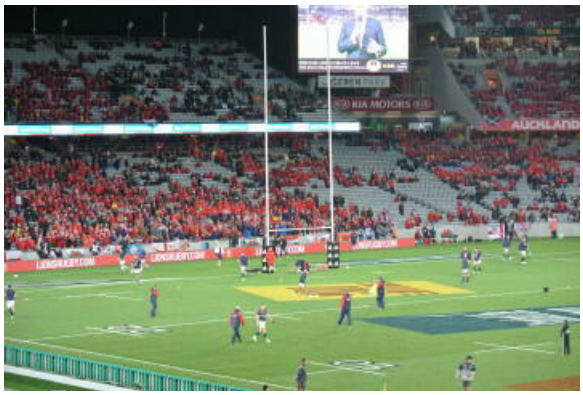
６月２３日、空港からホテルに移動。短パン履いたどこかで見たことある丸いオヤジ発見・・って、オールブラックスのハンセンヘッドコーチが、普通に歩いてるし。荷物を置いて街歩き。この時期のオークランドは、冬で観光業界から言わすと閑散期ですが、ライオンズツアーで大盛況。しかも、街行く人のほとんどが、ライオンズレッド。ジャージ、マフラー、ニット帽、ジャケット。真っ赤なカーニバルって感じで賑わっています。まずは、サイン会のあるスポーツ店へ。こちらでは、お店で商品を買ったり予約したりしなくても、時間内に並べば、ソニー・ビル・ウイリアムスにサミュエル・ホワイトロックとディーン・コールズなんて言う有名選手がニコリと笑って、配布のポスターにサインしてくれます。また、ファンゾーンでも同じように、ボーデン・バレットと2人の選手がサイン会をしていました。オールブラックスの選手がホント身近に感じて、得した気分になりますね。大先達さんと合流して、ナチュラルオイスターで乾杯、翌日のテストマッチに備えます。

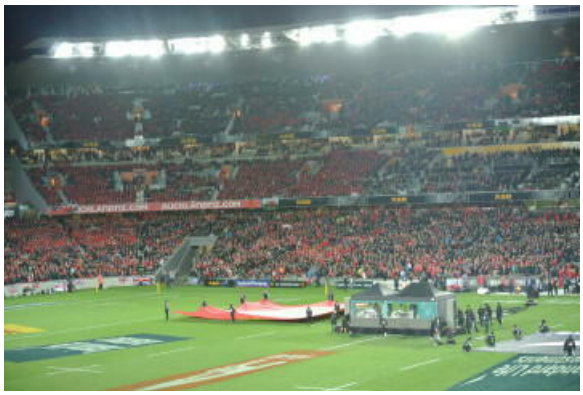
3．イーデンパーク

６月２４日は、お誕生日。気分はイーデンパークですが、まずはオークランド博物館を見学。マオリのステージに拍手喝采、気分はアイランダー。ファカフェテティラー！

ニューマーケットに移動して、ホスピタリティーのアイリッシュパブで盛り上がって、いざ、イーデンパークに到着です。

圧倒的なスタジアム。ビッグゲームにふさわしいグランドに感激ですが、あまりに広すぎて選手の見分けがつきません。スタンドは、真っ赤。ライオンズサポーターの方が多い気がします。さてさて、この一戦の為に南半球までやってきました。ウキウキ、わくわく、マルマル、もりもり・・って舞い上がってます。





国歌斉唱。この日の為に（？）マオリ語部分も英語部分も覚えて来ましたから、胸に手を当てて、一緒に歌います。続いて、戦いの儀式「ハカ」今回は、背番号21のTJペレナーラリードで、カパオパンゴ（ニューハカ）で気合が入ります。

オールブラックス、SO・ボーデン・バレットのキックオフから、ライオンズの猛攻、SH・コナー・マレーのゲインから、WTB・エリオット・デイリーがインゴールに持ち込むも、グランディングできずノートライ。まあ、録画で確認して中継してみましたが、現地では、赤（ライオンズ）攻め込むも、黒（オールブラックス）の分厚い防御、ファーストスクラムから、押せ押せの黒、必死に守る赤という図式。

前半目立ったのは、PGを狙わず速攻チョン蹴りでトライを奪った黒。SH・アーロン・スミスから繋いで最後は、HO・コーディー・テーラーのトライ。オールブラックスの強さは、即座の判断について行ける周辺選手の集中力、ハンドリングも素晴らしく、ミスは自分で取り返すのと、抜群の防御力。ライオンズ側の攻撃も、小さなハンドリングエラーと雨で濡れた芝生でのスリップで思い通りに進みません。FB・リーアム・ウイリアムスの独走からのトライで流れを引き付けるも、もう1本取れずで、13対8で折り返します。

後半開始早々のライオンズの猛攻。ノックオンとスリップで攻めきれず得点を追加できず、キャプテン・FL・ウォーバートン登場。ここまででPG1つでも決めていたら勝敗の行方は変わっていたかも。防御を重ねたオールブラックス。WTB・リエコ・イオアネがトライ2つ重ねて30対8に。スタンドからの「ラ～イオンズ！ラ～イオンズ！」のコールに乗り切れず万事休す。ノーサイド寸前に、最後のトライを奪うも30対15でノーサイド。世界最強、オールブラックスの勝利で最初のテストマッチが終了です。

お祭りですし、この観衆の中で歴史的一戦に立ち会えただけでも大満足。帰りのバスは、負けても明るいライオンズサポーターの皆さんの合唱で、オークランド市内に戻りました。

4. シビックスクエア

6月25日は、アオテア・スクエア横のシビックシアターでミュージカル。日本語なし、字幕なしで見るのは冒険かもしれませんが、映画・ビデオと何度も繰り返して見たウエストサイド物語ですから大丈夫、本気で舞台に集中できます。不良グループのOBと、敵対するグループのボスの妹がダンスパーティーで出会って恋に落ち、夜中に彼女の家のバルコニーで歌って愛を深めるなんて非常識な二人、次の夜には、彼女の兄を刺して、自分も撃たれるなんて、しっちゃかめっちゃかなストーリーですが、これが、現代のロミオとジュリエットなんて語り継がれている名作中の名作で、曲もトゥナイト、マリア、アイフィールプリティー、アメリカとスタンダードなものばかりで、ニセ言語で歌えそうな勢いで、特に、ジェット団とシャーク団、トニーとマリア、アニタ、それぞれの今宵（トゥナイト）への意気込みを表現した五重唱は秀逸。映画より舞台のほうが素敵です。

これ、世界ツアーでブロードウエイからニュージーランド、やがては東京でも字幕付きで上演されるそうですから、興味のある方はぜひご覧ください。

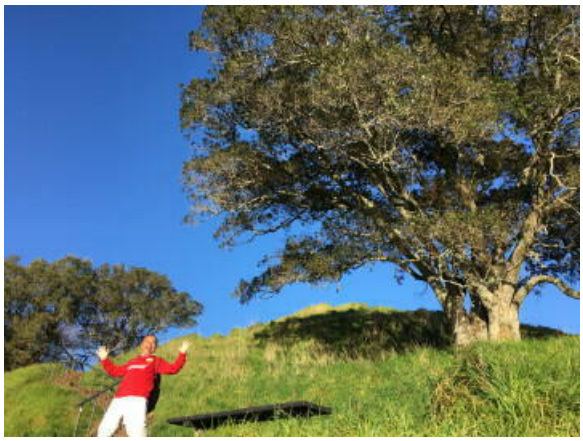
5. ワイトモ

6月26日は、ワイトモの洞窟へ。暗闇の中に光るツチボタルの幻想的な姿を見学。ツチボタルとは、日本の「あっちの水は甘いぞ」と飛び回る虫でなく、英語でグローワーム、日本語ではヒカリキノコバエで、あまり近づきたくないような虫ですね。その幼虫が、暗い洞窟で餌を求めて粘液を垂らして自ら光を放って、コバエや蚊をおびき寄せて捕獲するそうで、原理的には裸電球の下に粘着式ハエ取り紙を吊るすイメージで、南半球でしか見られない光景だそうです。

また、この洞窟、鍾乳洞で中を撮影できませんが、音響効果がスタジオもびっくりの優れもの。「エーイホーワ、アートゥア・・」と、ここでもニュージーランド国歌斉唱。この地に導いていただいたことに感謝ですね。

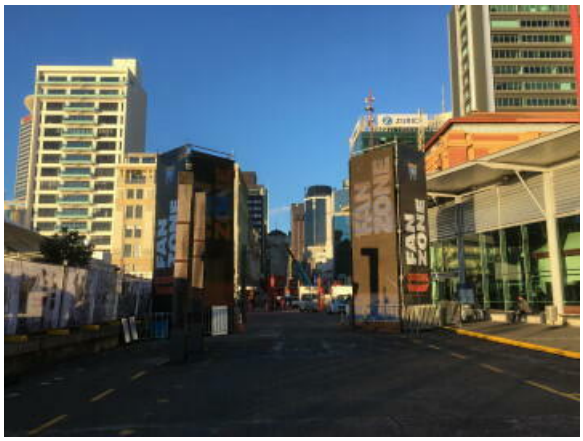
6. オークランド郊外

6月27日は、ラグビーの聖地、イーデンパークを高い位置から見学。火山が噴火してぽっこり盛り上がって、カルデラ部分が残っているマウントイーデンに登ります。最高の天気で、イーデンパークにスカイタワー、ランギトト島などが展望できます。



　続いて、オークランド動物園に。象さん、レッサーパンダにお猿さん、恐竜の生き残りのテュアタラ、夜行性コーナーでは、キーウィバードが歩き回る。ここでのお気に入りは、鳥さんゲージのカカ。オリーブ色のオウムですが、人懐っこくて、髪の毛がお好きなようです。

夜は、ウエリントンで開催しているライオンズの試合を港付近のファンゾーンで、パブリックビューイング。先のオールブラックス戦では流れに乗れず失速したライオンズが、ハリケーンズ相手に貫録を見せつけるかがポイントで、2015年のW杯で活躍したスコットランドのSH・レイドローや、ウエールズの落ち着きのないルーティンでプレースキックするSO・ダン・ビガー、伝説のロムー2世と呼ばれたWTB・ジョージ・ノースなどが先発・・というより、ライオンズ＝有名選手ですね。ハリケーンズも、バレット兄弟から、ジョディーがプレースキック担当。WTBには、ジュリアン・サベアが睨みをきかせます。こちら、ワイン片手に、もう一方の手で、日本から連れて行ったライオン・パペットを操って大画面で観戦です。

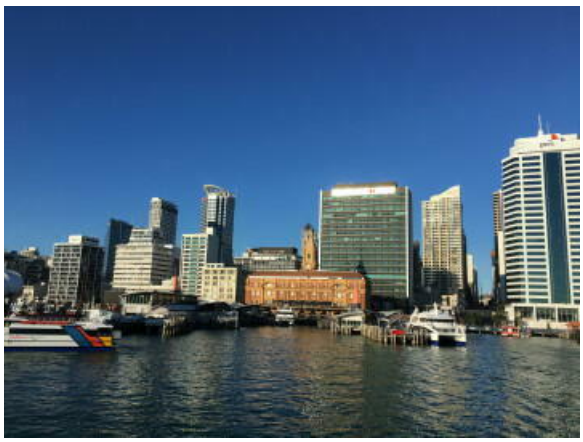


スタンドより見やすいかも・・なんて贅沢言うてますが、前半はライオンズのダン・ビガー祭りで、確実にPGを蹴り込んで、ライオンズ２３対７で折り返す。

後半は、ハリケーンズの猛攻もイエローカード1枚でストップ（ここで、23対17）流れは、ライオンズに向いて楽勝ムードも逆にイエローカード（31対17）ここからハリケーンズの逆襲で同点（31対31）残り10分の攻防は、一進一退、「ラ～イオンズ、ラ～イオンズ、ゴウ・ハリケーンズ・ゴウ」と、どちらを応援していいのやら。最後まで勝ちに行く両チーム。フィニッシュは、ダン・ビガーのドロップゴール・・・決まらずノーサイド。ファンゾーンもノーサイドで、一日が終わりました。

7. ティリティリマタンギ島

6月28日は、港から海を渡って75分、鳥たちの楽園・ティリティリマタンギ島へ。前回（2012年）に一度訪問した場所で、ガイドさん同行じゃないと渡れないと思っていたのですが、現地で個人でも渡航可能と聞いて、タカヘさん、ロビンさんに会いに行くことにしました。チケット購入時に、ランチとお水持参、泥付き履物・小動物持込禁止などの注意事項を聞いて当日、10時15分上陸。前回の記憶を頼りに、島に着いたら自由行動。けど、船の出向時刻の15時30分まで、乗り遅れたら自力で帰還。



灯台を目指してゆっくり歩く。勢いのある鳴き声はトゥイ、地上を短く飛ぶのはサドルバック、背丈ほどの位置からのぞき込むのはホワイトヘッド、人工的な餌場のハチミツ広場（？）に群がるベルバードにスティッチバード。植生も春には黄色の花が咲き誇るコーファイ、ハチミツでおなじみマヌカに、オールブラックスのシルバーファン、ニカウなるヤシの木も珍しい。

お天気も良いし、最高のピクニック日和、ティリティリマタンギ、アオテアローア！マオリ語ですが、日本語に訳せば、風が吹きあがる、白く長い雲がたなびく！

自由行動の利点で、灯台のある広場を独占。ピクニックランチを楽しみます。周りに居るのは、人間が好きなファンバードにランチのおすそ分けを狙うスズメ、マイペースで歩くプケコ。平和なティリティリマタンギ島の大自然に感謝です。ただ、売店でも居住地を確認しましたが、一番会いたかったタカへは発見できませんでした。

昼からもバードウオッチング。ライフルマンとかロビンを探す。レアもののニュージーランドピジョンという鳩、巣穴に戻ったペンギンさん、やたら元気なトゥイ。時間が許す限りこの地を満喫。街に戻ってシーフードプレートとワインで最終日に乾杯です。

8. 2017ライオンズツアー

①6/03：ワンガレイ：○13－7（Nzプロビンシャルバーバリアンズ）

②6/07：オークランド：●16－22（ブルーズ）

③6/10：クライストチャーチ：○12－3（クルセイダース）

6/13：ダニーデン：●22－23（ハイランダーズ）

⑤6/17：ロトルア：○32－10（マオリオールブラックス）

⑥6/20：ハミルトン：○34－6（チーフス）

⑦6/24：オークランド：●15－30（オールブラックス）

⑧6/27：ウエリントン：△31－31（ハリケーンズ）

⑨7/01：ウエリントン：○24－21（オールブラックス）

⑩7/08：オークランド：△15－15（オールブラックス）

以上5勝3敗2引分けが、今回のツアーの結果です。次は、2021年南アフリカ。次にニュージーランドに来てオールブラックスと対決するのは、12年後の2029年・・・さてさて、その時も観戦できるのでしょうか？

ライオンズも好きだけど、オールブラックスも好き。ラグビー王国ニュージーランド、最高です。

2017年7月10日記（旅は6月22日～29日）

Top
トップへ

Back
戻る